コロナ禍で 話題の本

編集委員 石河亮平

ひとりも、死なせへん コロナ禍と闘う尼崎の町医者、551日の壮絶日記

長尾和宏 著　ブックマン社　1、650円（税込み）

このところ新規感染者数が急減している。ワクチン効果と予防策励行の影響もあるだろうがウイルス自壊説は興味深い。ワクチン接種は11月1日時点で全国平均72・0％。中国やロシアでは感染再燃中、世界では死亡者は500万人を超え、地球規模でのコロナ収束は遠い。

今年8月、在京キーテレビ局の番組出演配布」などを政府や医師会に提言するも無為無策に切歯扼腕する日々。「本当の敵は、ウイルスではなく、人間なんじゃない か」「メディアが作るパニックが怖い」と怒る。メルマガや連載コラム、報道記事など（各種寄稿文、院内文書、写真他）に「感染症にかからない10箇条」「コロナのわがまま行状10箇条」「当院における風邪患者さんの対応マニュアル」「国のコロナ対策10の間違い」等々を含めて書籍化。映画「痛くない死に方」「けったいな町医者」の原作者でもある。これらは貴重な検証文献となるだろう。

〜〜〜〜〜

〈…まさか感染しているとは思わなかった。9月6日（月）11時に長尾クリニック（尼崎市昭和通7―242）へ妻の運転で行く。駐車場で、長尾医師が窓越しに問診。PCR検査をすると2人とも陽性。順番に胸のCTを撮ると、肺炎に。転八倒…18日（土）10―。

コロナが迫ってくる。2020年1月31日「とうとう新型コロナウイルスがわが町に迫ってきた」（「発生」）から始まり、2021年8月4日「自宅療養を基本〟が政府方針化。映画「痛くない死に方」が「メタボなので入院の必要がある」と…すぐには入院できなかった。7日（火）夜、救急車を呼んだが、酸素濃度が95パーセント以上あったので、救急車は帰っていった。8日時に長尾クリニック（尼崎市昭和通7―242）へ妻の運転で行く。駐車場で、長尾医師が窓越しに問診。PCR検査をすると2人とも陽性。順番に胸のCTを撮ると、肺炎に。転八倒…18日（土）10―。

時退院…22日（水）11時30分長尾クリニック

令和の尼崎赤ひげ　覚悟の書

これは本紙社長・小野元裕のコロナ闘病日記（東大阪新聞10月1日号掲載）からの抜粋である。一般的な対応が時系列で分かるため引用した。

少しだけ紹介すると

（水）朝に八尾市保健所から電話、12時、八尾市立病院に入院。検査後、24時間点滴と抗体カクテル療法を受ける。9日（木）と10日（金）は咳と熱で七

「お2人は素晴らしい免疫を獲得したので、今すぐにワクチン接種することはやめてください。今ワクチンをやり取りし…長尾医師の必要がある」と…すぐには入院できなかった。7日（火）夜、救急車を呼んだが、酸素濃度が95パーセント以上あったので、救急車は帰っていった。8日（水）朝に八尾市保健所から電話、12時、八尾市立病院に入院。検査後、24時間点滴と抗体カクテル療法を受ける。9日（木）と10日（金）は咳と熱で七転八倒…18日（土）10―。

時退院…22日（水）11時30分長尾クリニック

と覚悟を決める。「今だ。

ウイルスとは共生す

医師らしい素晴らしい選択だ。

長尾医師は「ペスト」を改めて読んだと言う。未来のある日に、本書を読み解く人がいるだろう。

山本周五郎が描く「赤ひげ診療譚」。長尾医師が赤ひげに重なってくる。「令和の尼崎赤ひげ」を想像しながら本を閉じた。

読み終えて、〝誰かが始めなくてはならない。見返りが一切なくても。誰もが認めてくれなくても、「あなたから」始めるのだ〟

アルフレッド・アドラー。長尾

る。日本ならではの

長尾医師は「ペスト」を改めて読んだと言う。未来のある日に、本書を読み解く人がいるだろう。

山本周五郎が描く「赤ひげ診療譚」。長尾医師が赤ひげに重なってくる。「令和の尼崎赤ひげ」を想像しながら本を閉じた。

読み終えて、〝誰かが始めなくてはならない。見返りが一切なくても。誰もが認めてくれなくても、「あなたから」始めるのだ〟

アルフレ

【著者略歴】
長尾和宏（ながお・かずひろ）
1984年東京医科大学卒業、大阪大学第2内科に入局。1995年兵庫県尼崎市で開業。複数医師による年中無休の外来診療と在宅医療に従事。医療法人社団裕和会理事長、長尾クリニック院長。医学博士、日本尊厳死協会副理事長他役職多数、関西国際大学客員教授ほか。
著書に「痛くない死に方」「平穏死10の条件」「歩き方で人生が変わる」など多数。